

令和6年度 第1回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和6年6月6日（木） 10時00分～12時00分			
開催場所	半田市リサイクルセンター2階 大会議室			
会議次第	1. あいさつ 2. 議事 (1) 「半田市民討議会」の実施報告について (2) 半田市の環境の取組について 3. その他			
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡	副会長	
	委員	山田 尚登	牧野 純子	榊原 靖
		神戸 繁明	石川 毅	飼沼 亜紀子
		高原 英樹	川島 祥子	
欠席委員 ※敬称略		森下 久子	森田 邦裕	小川 彰子
		安達 典孝		
出席職員	市民経済部長	大山 仁志	環境課長	太田 敦之
	副主幹	森下 直孝	副主幹	山田 隆康
	主査	井戸 敏史	主事	片山 高也
次第	<p style="text-align: center;">議 事 概 要</p> 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。			
1. あいさつ	-市民経済部長及び千頭会長あいさつ-（略）			
2. 議事	<p style="text-align: center;">議事（1）「半田市民討議会からの提言」について</p> <p style="text-align: center;">（会長）</p> 事務局より説明を願う  <p style="text-align: center;">（事務局）</p> 資料①をご覧ください。前回の会議では市民討議会を実施した旨の報告をいたしました。昨年度開催した「市民討議会」では8グループに分かれて、ゼロカーボンテーマに話し合いをしていただきました。意見を取りまとめた結果、提言として大きく4つにまとめられています。			

1つ目、市民への参加の促しです。ゼロカーボンに向けて、市民も参加することが大切であるため、参加したくなる仕組みづくりが必要とのことで、一つ目の提言をいただいております。

2つ目、これからの世代を担う子どもたちに若いころから環境に対する意識をもっていただくことが大切であるため、様々な学ぶ場の提供が二つ目になります。

3つ目、情報発信についてです。今回の討議会の中で、環境課が取り組んでいることを初めて知ったという参加者もいらっしゃいました。やっているんだけど、伝わっていないことがあるので、PRをしっかり行うようにとのことでありました。

4つ目、公共施設を活用した3Rの場所づくりです。活動の拠点を作ることで、活動する人々の交流や発信する場ができるとのことで、公共施設にそうした場所を作ってはどうかという提案でありました。

提言内容については環境課が中心となり、庁内横断的に関係する部署が集まり状況の整理と実施内容の検討を行いました。まずは可能なものから取り組んでいくこととしております。

進捗管理も行いながら、市のHP等でお知らせをまいります。

資料②をお願いします。

5月1日からスタートしている「脱炭素チャレンジ」のチラシです。この事業も市民討議会の提言事業の一つとして位置づけられています。

家庭での電気・ガス・ガソリンの使用量の報告に加え、脱炭素につながる行動にチャレンジしてもらった世帯へ、記念品としてクオカードをプレゼントします。

取り組む内容については、応募用紙の裏面にチャレンジ項目として記載しています。様々な項目を用意していますので、一人一人が取り組めることにチャレンジしていただければと考えております。

委員の皆様にもぜひご応募いただきますようお願いいたします。

事務局の説明は以上です。

(会長)

質問や感想があればお願いします。まずは1つ目の方、市民討議会の提言についていかがでしょうか。

市民討議会の参加者の中から今回新たに2名の方に本会議の委員になっていただいているので、よろしければ市民討議会でどのような議論がなされたか紹介いただきたい。

(委員)

市民討議会に初めて参加させていただきました。環境のお話ということで、グループでの議論もはじめは「ちゃんと分別をしましょう」「電気自動車を買きましょう」といった話に進んでいってしまいました。ただ、その流れは少し違うなと思ったので途中で軌道修正をして、このように4つの提言にまとめられたことについて、非常に良かったと思っています。

(会長)

ありがとうございます。この市民討議会の仕組みについて事務局から改めてご説明いただけますか。

(事務局)

無作為抽出で選ばれた3,000人ほどの市民に、市民討議会へ参加してみませんかというお手紙をお送りしました。その中から参加を希望された44名の方により開催されました。

討議会は2日に渡って実施されまして、1日目は環境、脱炭素に関する勉強会を行いました。2日目には8つのグループに分かれ議論をしていただきました。大きなテーマは「ゼロカーボン」ですが、グループの中では車の買い替え、ゴミの減量など、ゼロカーボンに繋がるテーマでの話し合いがありました。最終的には資料にもあるとおり、4つの提言にまとめられています。

市が抱える様々な課題のうち、第1回目のテーマとして選んだのがゼロカーボンであり、今年度は違うテーマで同じように実施していくと聞いています。

(会長)

ありがとうございます。飼沼委員はいかがでしょう。

(委員)

半田市に住んで3人の子育てをしています。環境だけでなく、子どもたちには良いものを残してあげたいと思うのは、子育てをしている方なら色々な場面で感じるのだと思います。

そういう思いもあって参加させていただきましたが、グループによって色々個性があって、無作為で集まった人たちのグループで話し合っ決めていくんですけど、私たちのグ

グループはどうしたら環境に関心を持ってもらえるかという話をしました。その際、ポイントに関する話題が上がって、ポイントがすべてではないけれど、やっぱりポイントってもらえると嬉しいものだから、環境への関心にも結びついていくのではないかということで話し合いを進めました。

他のグループの発表にも色々な意見があって、本当に勉強になりました。

(会長)

ありがとうございます。

今回の提言に対して、他の委員からもそれぞれの立場でどのように感じられたか、自由にお話いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

私の会社に直接関係するのですが、バイオマス発電の見学会の実施と書いてありますが、我々としては全く問題ございませんので、ぜひ企画いただければとは思っております。大体ざっくり言うと 2 時間ぐらいの工程になるのかなと思ってまして、ボイラー棟は高さが 50 メートルぐらいあるんですけど、登っていただけます。半田市を見渡すことができるので、良い機会かなと思います。ただ登っていただくところは手すりだけなので小学校の少なくとも高学年以上ぐらいで、1 回に 15 人ぐらいを目処に、それは複数回あってもいいのですが、見学していただけます。どの時期でもスケジュール調整はさせていただきますが、あんまり寒い時はあんまりよろしくないなので、春か秋ぐらいに実施できると良いのではと思います。今週も関係者ではありますが、2 組ぐらい見学に来られています。春と秋の季節は主に我々の電力の販売先や親会社の関係、チップを燃やしていますので、チップの供給業者が見学に来られます。

まずはパートナーシップ会議の委員さんに見学していただいて、どのような工程かを確認いただいた上で正式に募集していただくということでもよいかと思えます。

(会長)

ぜひともよろしく願いいたします。

再生可能エネルギーの発電所として、半田市には 3 つのバイオマス発電所があって、一般家庭 25 万世帯分ぐらいの再生可能エネルギーが生産されています。この量というのは、知多半島すべての家庭の電気を賄えるほどの量です。それだけ多くの再生可能エネルギーを生み出しているまちであるということをお住いの方のほとんどがご存知でないことをいつも悔しいと思っているので、PR が大切だと思います。

(委員)

子どもの教育というところで、この話は私たちのグループから出た話だと思いますが、例えば下水がどのように処理されているかを私たち大人ですら知らなくて、自宅から出た汚水がどこをどのように通って処理されているか、例えば授業参観の日などに市内で一斉に授業をやってもらえると、子どもたちだけでなく、そこに参加した親御さんにも伝わるので、そうしたことを実施できると良いのではと思います。

(会長)

グリーンセンターが稼働していたころは市内の全小学校が見学に来ていたと思いますが、今は市内にグリーンセンターが無くなってしまったという課題もある。

(環境課長)

現在は市内全小学校の4年生がゆめくりんへ見学に行っています。

(委員)

そういった身近なことは子どもたちにも興味を持ってもらえそうですし、例えば学年別で学ぶ内容を変えるといった工夫もできると思います。

(会長)

最初は我々委員で見学をさせていただいて、プログラムという大げさですが、見学コースの紹介を市民の方へお伝えできるとよいですね。

(委員)

公共施設を活用した3Rの場所づくりということが書いてありますが、環境の視点で重要な指標の一つである1人1日あたりのごみ量の場合、3Rの活動をして、これだけごみの量が減らせたというのは非常にわかりやすいと思う。

(会長)

この提言書は実行委員会が市長あてに提言をされたものですが、市長は実行委員会あてにその後の進捗状況などを答えていく仕組みになっていますか。

(事務局)

実施状況などをまとめさせていただき、内部で検討しますというところまでは伝わっていると思いますが、その後の進捗状況などはホームページで公開していくと聞いています。

(委員)

何か具体的な策として返せるといいですね。提言を受けただけではなく、形として返していけるとよいと思います。

(事務局)

提言の中から様々な事業を選択し、どのように進めていくかを検討している状況です。お示しの仕方については決まっていますが、市民協働課にも伝えながら、プッシュ型の配信を考えていきたいと思っています。

(会長)

行政が発信してもなかなか市民の方に見ていただけないことが課題ですね。昨日の話ですが、とある自治体で市役所職員の名札を名字だけのひらがな表記にしましたというニュースが流れていました。それだけ見たら日本で初めて実施したと受け取れる内容だったのですが、半田市役所ではずっと前から実施している取り組みですので、こうしたところからも半田市の PR、宣伝に課題を感じています。

先ほど事務局から紹介していただいた脱炭素チャレンジについて、飼沼委員からもポイント制に関するお話がありましたが、いかがでしょうか。

(委員)

たまたま私たちのグループにはポイントに興味がある方が多く集まったので、そこから深堀をしていって、ポイントを集める過程で市民の方にも関心を持ってもらい、そこから市外の方にも広がっていくのではないかと考えて話を進めました。

主婦層や子育て世代にはポイントは大きいと思ったので、知ってもらうための第一歩として良いのではと考えました。

直接自分の利益にならないと、なかなか関心を持ってもらうことができないのではないかと思います。

(会長)

2005 年の愛・地球博をきっかけに、エキスポエコマネーという制度がありました。環

境に配慮した行動を行うとポイントが貯まるという仕組みで、10年以上は続いていたと思います。ポイントを貯めると木で作った筆箱がもらえたりする制度でした。

半田市でもエコファミリーの制度がありましたが、今はどうでしょうか。

(委員)

もったいないバザールをやっている時に、皆さんにも入っていただいた覚えがあります。今でも何かイベントを行う際にエコファミリーを優先しますと見かけますので、制度は続いていると思います。

(会長)

脱炭素チャレンジのエネルギー使用量の報告のところで、1か月に使用したガソリンの量を報告していただくことになっている。電気やガスは送電量などからある程度把握することができますが、ガソリンの使用量だけは把握することが非常に困難です。

半田市の家庭から出ているCO<sub>2</sub>の量を抑えようと思ったときに、ガソリンの使用量がわからないというのは大きな課題です。この取り組みで単身世帯なら大体どれくらい、2人世帯ならこれくらいの量ということが把握できるとよいですね。

(委員)

お示しいただいたチャレンジ項目の中にエコドライブに関する取り組みが入っていないことが気になります。

ふわっとアクセル・ブレーキを実施することで、実績として燃費が約10%は良くなる。燃費が良くなればガソリン代も節約できます。もう一つ重要なこととして、自分で意識して実践できるという点。交通安全にも繋がる取り組みなので、チャレンジ項目に入れるべきだったと思います。

(事務局)

エコドライブについてもチャレンジ項目の候補に挙げておりました。ただ今回自動車関連で項目に入れたのは、徒歩や自転車、公共交通機関の活用など、自動車からの転換の部分を優先して入れました。今の自動車は車自体がエコ制御を行うような車も増えておりますので、人間の制御よりも自動車自体がエコに配慮しているという認識もありまして、優先順位をつける中でエコドライブの記載を見送りました。

(委員)

今回ガソリンの使用量を書くことになっていますが、走行距離を入れる手もあったのではないかと思います。走行距離は皆さんが把握されていることなので。

既にスタートしている取り組みなので、今からの変更は難しいと思いますが、もし来

年があるとしたら検討してください。

(会長)

それでは、また来年度実施する際には、回答の状況も見ながら取捨選択するなど、項目の入れ替えを検討しましょう。

事務局の思いとして、正確に何かを図るというよりは、意識づけを行うということが狙いだと思います。

委員からは何かありますか。

(委員)

地域の住民からの要望で一番多いのはゴミステーションの関係だと思います。マイルポはんだを使って市へ要望を伝えたりしていますが、特にカラス対策は重点的に考えていただきたい。せっかくルールを守ってごみを出しても、カラスに散らかされてしまうと意識が下がってしまうので、市としても何らかの対策を考えていただきたい。

(事務局)

以前からある古い木枠のものなどはカラスが下から入ってくるものがあるので、現在特にカラス被害が酷いステーションはボックスタイプのものに変えています。ご相談をいただければ、対応してまいります。ただ、数に限りがあるので、すべてを順次変えていくものではないということをご理解いただきたい。

(会長)

色々なご意見ありがとうございます。

提言書として市は受け取ったので、検討を進めていただき、何らかのリアクションは行うべきかと思います。あまり先延ばしにするのではなく、検討状況でもいいので何らかの形で表に出せると良いのではないのでしょうか。

それでは、今出していただいた話にも繋がってくると思いますが、2つ目の議題である「半田市の環境の取り組みについて」、こちらは皆さんとディスカッションしていけたらと思います。

まずは事務局から話題提供をお願いします。

(事務局)

矢勝川環境保全事業についてご説明します。この会議はもちろん、他の会議でも話題に出ますが、やはり半田市における矢勝川はシンボリックな川です。ただ、よく見



るとかなり環境が悪化している場所もあるので、何かできないかというところで、前回の会議から少し動きがありましたので情報共有をさせていただきます。

元々は岩滑地区の方からのご紹介をいただいたのですが、半田市の事業者さんで、貝殻を飼料化する企業があります。中部電力の火力発電所に貝がたくさんくっついてしまうので、これを回収して飼料にされている企業です。

その企業から貝殻を使った水質浄化の取り組みについて提案をいただきました。他県では取り組み事例があるようですが、矢勝川でどれだけ効果が出るのかわからないため、実際に矢勝川の水を採取し、屋内で実験をしていただきました。元々は海にあった貝殻ですので、一度洗浄を行っています。実験として水質浄化とろ過実験の2つの実験を行いました。貝殻を入れて数日間放置した結果、透明度の多少の改善とCODの数値改善が見られたとのことでした。

実証実験の結果としてある程度の効果は見込めるのではないかとのことです。この取り組みを実際に行うにあたっては、愛知県など色々な機関に許可を得ながら進めていく必要がありますし、本取り組みを実施したことですぐにキレイになるかと言うと、結果はわからないところではありますが、改善のために何か取り組むということに意味があると思いますので、取り組んでいきたいと考えています。

実際、水質悪化の原因としてはある程度判明してきていまして、水質浄化の願いを継続していくのはもちろんですが、別の動きとして実施していきたいと考えているものです。

(委員)

他県の事例でどのように実施しているかというのが非常に重要で、大量の水を浄化するためには貝殻も大量に必要だと思います。

実際にどの程度の水の量を何トンの貝殻で浄化したのか、もう少し詳しく説明いただけますか。

(事務局)

長崎県の事例では、大村湾という場所で、ヘドロが流入して水質の悪化が見られたとのこと。海へ合流する川の部分にろ過装置として貝殻を置いたという事例でしたが、どれだけの量を置いたかについては把握できていません。

(委員)

市民が参加できる形を考えるのも良いと思います。河川の清掃や古い竹山を整備するなど、見学会もそうですが、イベント性のある取り組みはどうでしょうか。私たちの

会社では木を燃やして発電していますので、植林の事業を行っています。CO2 を出す側への取り組みだけでなく、長い目で見て吸収する方の事業を住民参加型で実施してはどうでしょう。20年30年かかる事業ですので、一企業が取り組むにはハードルが高い部分がありますが、自治体としては取り組みやすい事業かなと思います。

(会長)

実際に矢勝川の浄化活動はどのように進めていきますか。

(事務局)

上流での実施をイメージしていますが、量がそれほど必要でない川幅の狭い区間に何か所か入れてみようと考えています。資材などもすべて提供いただけるという話ですので、実際に入れてみて効果があるかどうかを実証実験的に行うことを考えています。

(会長)

愛知県にもすでに動いてもらっているところだと思います。農家さんのところにも話をしてもらっていると思うので、それに加えてということで。

貝殻の浄化実験はある程度効果があるものだと思います。ただ、注意しなければいけないのは、絶対に流出しないよう気を付けないといけない。流れ出してしまったという事故が起こると次に実施することが難しくなるので、そこだけは事業者の方にも注意していただきたい。

他にも少し気になるのは、浄化のために使用した貝殻はその後飼料化するのでしょうか。産業廃棄物として廃棄するのでしょうか。

(事務局)

一度沈めたものはある程度の時期に一度引き上げて、洗浄後にもう一度沈めると聞いています。定期的に洗浄しないと過作用が低下してしまうため、2か月に一回は引き上げて洗浄するとのこと。そのあたりは基本的に事業者側で実施しますが、量にも制限が出てしまうので、仲間をどのように増やしていくかが課題だと思います。

(委員)

手作業で実施できる量だと効果が小さくなるだろうし、大規模にやろうとすると河川内の構築物になるので、効果的な実施は本当に難しい。私自身、何十年も前から河川直接浄化ということで色々な実験をさせていただきました。しかしながら、ことごとく失敗し、それなりのコストをかける必要があるということがわかりました。実験のデータ

を見ても、ここで示されている透明度は恐ろしく低い数字です。まずは発生源に近いところで対策をしたいところです。

(会長)

企業の方からこうしたお話をいただけるのは良いことなので、効果も確認しながらうまく進めていきましょう。

それでは、懇談テーマということで、今後取り組んでいきたい内容について、何かアイデアがあればお話しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

年間を通して環境大学をやれたらいいなと思っています。座学や体験、見学会などを計画立てて実施していきたいなと思っています。

リサイクルについてとか、バイオマスについてとかということを勉強しながら、実際にバイオマス発電所へ見学に行ったり、企業が整備しているビオトープを見学に行ったりできたらと思います。

体験についても、廃油で石鹼が作れたり、ガラス細工、キャンドル作りなどもやってみたいと思っています。半田市はアスパを無料で配っているのです、そういったものを活用して体験会を実施したいです。

できれば児童、生徒、学生も参加できるような形で実施できるようにすることを考えています。小学生とバイオマス発電所の見学に行った際にも、大変興味を持って見学しているので、そういう機会を作ってあげることが大切かと思っています。

今どのような状態かわかりませんが、クリーンセンターの焼却炉も見学したいと考えています。以前実施していたもったいないバザールも、1日だけですごくたくさんの方が来てくれました。場所が空いているのであれば、販売するものを常時展示して、特定の日だけ購入できるという形も作れたらいいなと考えています。

(事務局)

もったいないバザールはリユース事業だと思いますが、今回、リユース事業としてフリマサイトと協定を結んで、事業を実施していきたいと考えています。東浦町では既に実施している事業ではあるのですが、リユースできるものを市がフリマサイトに出品して販売するという事業を考えています。

(会長)

そこで得た収益はどこに入りますか。半田市に入るということでしょうか。

(事務局)

半田市の会計に入りますが、市のリサイクル事業などの財源に充てていくことを考えています。

(委員)

半田市のごみ量が減っていますが、この要因としてゴミ袋の有料化があったと思います。これまでのごみ量の推移と、減ってきた要因をどのように考えていますか。

(事務局)

有料化が始まったのが令和3年度です。令和2年度のごみ量は一人あたり646グラムでした。これが有料化の影響もあって468グラムまで減り、令和4年度には半田市にあった焼却施設が廃止になり460グラムまで減りました。

ごみの持ち込み場所が半田市内から隣の武豊町になったということで、やはり手間になるため、持ち込み量が減ったことで全体のごみ量が減っているということはあると思います。

還元策として資源袋を配付しまして、それにより皆さんに関心を持っていただいたということもあるかと思います。これまで燃やせるごみに入っていたであろう紙やプラスチックが資源に回ったということも考えられます。

(会長)

ごみが減った分が指定袋として還元されたというのはわかりやすい施策だったと思います。現状で30%くらいの200グラムが減ったということですね。

(委員)

この数字というのは近隣の自治体と比べてどうでしょうか。

(事務局)

愛知県の中では今11位くらいです。武豊町が4位か5位の位置にいるので、まずは知多管内での1位を目指していきたいと考えています。

今年度の目標値を決める際にも、20グラム減はかなり大きい数字だと思いますが、武豊町の実績値である420グラムを一つの目標として考えています。

今回目標を達成できたという点について、市民の方に頑張っていたということも当然あるんですが、事業者側としても過度な梱包はしないなど、工夫していただいている点があると思っています。

(会長)

他の自治体の会議で聞いた話ですが、燃やせるゴミとプラスチックを同じ業者、同じパッカー車が集めているように見える。これが市民の方からすると、分別しても一緒に燃やしているんだろうと思っている、そこが伝わっていなかったことを課題に感じていました。

環境大学についても、今年で 20 年目になりますが、名古屋市が名古屋環境大学というものを実施しています。おそらく日本で一番大きな環境学習の仕組みだと思います。年間で 2 万数千人が参加をされています。

この名古屋市の事例を参考に東海市がエコスクールを作りましたが、結局一番問題になるのが事務局を誰がどう担うかということです。名古屋市の場合は実行委員会形式ではありますが、負担金という形で、今はほとんど市が負担しています。東海市の場合、事務局を市から市民へ持っていきたいという議論をしていますが、現実的には難しく、生活環境課が事務局を担っていただいています。

兵庫県の尼崎市では、NPO が市の環境教育事業をまるごと受託して運営しています。

1 番良いのは行政、市民、事業者みんなで一緒になって実行委員会の事務局を作ると良いのですが、人の問題、お金の問題が解決できずに、結局行政が担っているという課題があるので、引き続き考えていきたい課題ですね。

(委員)

環境ってやっぱりお金がかかるんですね。すべてがボランティアでは限界があることも事実で、半田市としても少し環境へ投資をしていただいて、取り組んでもらいたいと思います。

(事務局)

半田市の財政状況もなかなか厳しいところがありまして、特にここ数年で公共施設の更新をいくつか控えています。例えば公用車を一度に電気自動車に変えてしまって、市民の方へ P R したいという思いはあるのですが、順番に更新していくということで、財政上若干仕方がない部分もあるのかなと思っています。

(会長)

市役所の電気は CO2 フリーのものを使っていて、これはおそらく知多半島の市役所で唯一だと思います。ただ、これを全然宣伝していないので、もっと宣伝すべきと思います。

フリマサイトの話になりますが、この仕組みに市民の関わりはありますか。例えばフリマサイトに出品してほしいものを、この場所に持ってきてもらえればリユースに回せますよという仕組みを、一つの方法として考えられませんか。

個人でやろうとすると発送が大変なので、それを代わりに行っていただけるというのは良いかなと思います。

もったいないバザールの時に、おもちゃの修理は実施していましたか。市民の方の中にも修理できる技術をお持ちの方は結構いらっしゃると思います。他の自治体でおもちゃ病院を実施しているところの話を知ると、子どもたちが劇的に喜ぶと。動かなくなってしまって悲しんでいる中、持っていったら直してくれて動くようになったというのが本当に嬉しいみたいで、良い取り組みだと思います。

環境大学の件について、提案いただいた委員から、形にしていくために何から始めるか、お考えがあればお願いします。

(委員)

まずは何を実施していくかをみんなで決め、座学や体験、それぞれがどのようにつながっていくかを考え、1年間通じて実施していけることをできるだけ多くアイデアを出していただきたい。

その中から講座の中身を選んでいきたいと思っています。

(会長)

この場でゼロから考えていくのは難しいかもしれないので、皆さんからアイデアを募ると良いですね。以前の推進部会という形で作っていくことを考えても良いと思います。

企業さんとしても、見学の受け入れや技術の紹介などの提案をいただくと、それが社会貢献にも繋がるということで、お聞きしてみても良いと思います。

企業の敷地内にあるビオトープなども、結構力を入れて整備をされてみえますので、見学に行くのも良いかもしれません。

(委員)

先ほど河川の環境についてお話が出たと思うのですが、市民討議会のグループで話をした際に、必ず牛に関する話がでました。農家さんなど、牛で生活している人もいますので、すべて牛が悪いかというわけではないと思うのですが、牛や豚、鶏などの畜産関係が悪く言われないように、良い方向に活用できるものはないのかなと思います。

(事務局)

畜産臭気の視点では、毎年臭気測定を実施しています。臭いの数値が高いところには指導も実施しています。実際に対策しようと思うと、ふん尿に混ぜることで臭気の低減を図るための資材に対する補助金などのメニューを産業課が用意しています。

実際に農家さんの中にも頑張っ取り組んでいただいている方がたくさんいらっしゃって、半田市全体の臭気自体も下がってきています。ただ、臭いがゼロになったわけではないので、臭う日があるともうちょっと頑張っしてほしいねという話が出てしまうというのが現状です。

お金をかければかなり抑えることができるのですが、農業者としての生活もあるので、そのバランスをうまく取りながら、なるべく臭いを消していただくような方向で話をさせていただいています。

(委員)

牛の臭いについては気になる日が減ったような気はします。

(会長)

努力をしていただいて改善した成果は出ていると思いますが、お近くのお住いの方にとってはまだ気になる日があるとのこと。日本福祉大学の半田キャンパスに勤めていた時期には、風向きによって臭う日があった。今はそこまで臭いが気にならなくなったと思います。

以前視察に行った屋久島の農家では、ある種の微生物を使った餌を使って、いくつか方法があるようなのですが、劇的に臭いが抑えられていることを経験しました。

(委員)

例えば牛のふん尿などを使って、発電や他のことに役立てることができたら良いのと思うのですが。

(事務局)

市内にはビオクラシックス半田というバイオガス発電所がありまして、そこでは畜産ふん尿を原料の一つとして、食品残渣やコーヒーかすなどと混ぜてメタン発酵させることで発電をしています。

この発電所に投入しているふん尿は一日あたり約 10t ですが、市内で発生する牛ふん尿は一日あたり 300t から 400t と言われていますので、量的には追いついていないというのが現状です。

固体分と液体分にふん尿を分けて、できるだけ早く乾かすということが臭いを抑えるポイントになっています。ただ、設備投資には大きな費用が掛かってしまうので、今の設備でできることを行っていただいているというのが現状です。

(会長)

こうした取り組みについても、市民の方にうまく伝わっていないのではないのでしょうか。

(事務局)

最近ですと、ビオクラシックス半田に併設されたビニールハウスで栽培されたミニトマトがバローさんやヤマナカさんといったスーパーに並び始めています。このトマトは「ミラトマト」という商品名で、バイオマス発電によって発生した熱と CO2 を使って育てたトマトです。

(会長)

ありがとうございます。他に無いようですので、この会議の今後のスケジュールについて、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

次回は9月24日に開催することを予定しています。その際は、今年度実施する標語コンクールの審査をお願いしたいと考えています。それ以外の時間は今回同様フリーディスカッションを行いたいと思います。3回目は12月の実施を予定しています。

(会長)

今年度残り2回ということで、今年度結論が出なくても、来年度に引き続いて議論しても良いと思います。まずは環境大学のお話をブラッシュアップできるよう、皆さんの意見を聞いていきたいと思います。仲間を増やしていくのか、どういった内容にしていくなのかという点を詰めていけると良いかなと思います。

見学先についても皆さんから意見をお聞きしてリストアップしていきたいですね。

それでは本日の会議はこれにて終了します。